

平成23年
8月号

桂台地域ケアプラザが

地域交流プログラム

発行日／平成23年8月1日
編集・発行／横浜市桂台地域ケアプラザ
発行責任者／石塚 淳

お問い合わせ先

地域交流部門 897-1111

HPアドレス

<http://www.katsuradai.com>

桂台 支えあい連絡会

検索

横浜市から地域活動のヒント集が発行されました。このヒント集は、各区の地域活動の実践者にヒアリングして作られたものです。先行している実践者の知恵は、地域活動をすすめていく上で、「さあ困った」という時に、必ず役に立つことと思います。わが栄区からも、湘南桂台自治会（もちろん、シニアクラブとグループ桂台も含めて）がヒアリング先の一つとして選ばれ、活動のヒントになる助言を寄せています。それでは記事の中から、いくつか具体的なアドバイスを紹介してみましよう。

Q.一緒に活動する仲間を見つけるためには？（声かけを工夫する）

- ⇒ 活動に参加してくれそうな人の情報をこまめにメモし、その情報をもとに声をかける。
- ⇒ 活動の利用者は、実は活動の仲間になりうる可能性を秘めている。
- ⇒ 新しく転居してきた人たちに、ウエルカムミーティングを実施して街を知ってもらう。などなどです。



紙面の関係上、紹介はほんの一端ですが、もっと具体的なエピソードが満載です。ご興味のある方は、桂台ケアプラザにお問い合わせいただくか、支えあい連絡会ホームページからダウンロードできますので是非ご覧ください。

8月のおしらせ

育児教室 ～新米ママあつまれ～

お母さんどうしの仲間づくりの場です。
地区担当の保健師さんが参加し、育児相談もお受けしています。

日時：毎月第4水曜日 10時～12時

場所：桂台地域ケアプラザ 多目的ホール

対象：1歳までの第1子のお子さん（栄区福祉保健センター 主催）



～ママたちへ耳よりなおはなし～

“親子で楽しく歯みがきタイム！”

じょうぶな歯を育てるブラッシングのコツが学べます。

今日からあなたも歯みがき名人！

日時：9月27日(火) 10時30分～11時30分

講師：歯科衛生士／赤松 博子さん

募集：10組（先着順）

持ち物：普段愛用の歯ブラシ（親子とも）

申込み：電話か直接ケアプラザへ



桂台スペシャル デイのお知らせ

桂台地域ケアプラザデイサービスでは、利用者さんへの日頃の感謝を込めて、月に一回「桂台スペシャルデイ」を企画しています。毎月毎月素敵なプログラムを企画していますので、地域の皆様も是非、足をお運びください。ご希望の方は、桂台地域ケアプラザまでご連絡ください。

日時：9月10日(土) 14時～15時

内容：秋です！お月見釜で季節を感じましょう！「お茶」「活け花」「お琴の演奏」をお楽しみ下さい。

場所：桂台地域ケアプラザデイルーム

龍先生健康相談

ケアプラザ協力医の龍先生による無料の健康相談を右記日程で行っています。身近な病気の相談など丁寧に対応させていただきます。（予約優先）

協力医：龍 覚先生
（上郷医院 院長）

日時：8月26日(金)
13時30分～15時

場所：桂台地域ケアプラザ
相談室

第1回「ぬくもり」開催

～さかえ・つながるプラン進行中～

世代間交流サロン「ぬくもり」！ 初回大盛況！ 150人の参加者が訪れる

去る6月19日（日）第1回の「ぬくもり」が開催されました。梅雨時で心配されたお天気も、みんなの思いが通じてか小休止！ 着ぐるみの“タッチー君”が玄関前にお出迎えをして楽しく幕開けしました。館内には、1日中おいしいカレーの匂いが立ち込め、シニアバンドが奏でる懐かしいメロディーにのった歌声、子どもたちのソーラン節と子ども相撲への応援や拍手がこだまし、たいへん賑やかな一日となりました。「持つてるねえ～」ではなく「つながってるねえ～」と思わずつぶやいてしまったほど心がぼかぼかした日でした。



↑タッチーくん♪
お車をお出迎え

↓大盛況！
受付はこっちだよ



↑イザ真剣勝負！

↓マルマルモリモリ、
みんな元気



地域リーダーインタビュー

今回の取り組みについて、
インタビューさせていただきました。



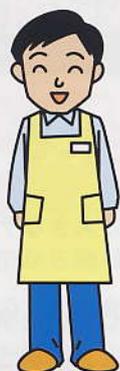
塚本忠志さん

(米区子ども会連絡協議会副会長・
上郷西地区つながるプラン第2部会メンバー)

Q1

「ぬくもり」を
企画した思いを
教えてください

この上郷西の地域は、町ができて40年くらい経ちます。当時働き盛りだった世代は高齢化して、子ども世代は自立して他の地域へ移り住んでいることが多いようです。その為、この地域は子どもが少なく高齢化が進んでいます。必然的に高齢者の一人暮らしや高齢世帯が増え、閉じこもりとなりがちの方が増えてきていると感じています。子ども会の活動を通して感じていることは、子どもの声は人を元気にすることです。「閉じこもりがちの高齢者を元気な子どもたちの声で、元気にしたい」それが一番の願いです。また、地域には子どもや若い世代が楽しみながら、参加できる企画が少ないように感じています。世代を超えて楽しめる企画を行いたいという思いで、今回のサロンを企画してきました。



世代間交流サロン「ぬくもり」の活動は、「さかえ・つながるプラン（栄区地域福祉保健計画）」の地区計画『上郷西つながるプラン』に基づいて動いています。そのメンバーは、地区社会福祉協議会や民生委員児童委員、保健活動推進員等、地域の委嘱役員の方が中心ですが、その他たくさんのボランティアさんが関わっています。

Q2

どのようなメンバーで活動をされたのでしょうか？

Q3

サロンに
あたったの
準備や工夫を
教えてください

事前準備として、昨年12月に、世代間での交流を実践しているサロン「ひだまり」の見学へ行きました。これは、毎月、地域の方と小菅ヶ谷地域ケアプラザ、栄区生活支援センターが協働で実施しており、高齢者、子ども、その親と世代に関係なく参加できる素晴らしい活動です。毎回、平均して200人もの参加者がいると伺いました。事前見学をしたことで、メンバーのイメージが固まり活動に大変参考になりました。どうしても行いたかったのが、安価に昼食が食べられるようにすることでした。世代を超えたつながりを作るには一緒に食事をするのが一番！そして、サロン内でいろいろなイベントを絶え間なく行っていくことで交流を持っていただき、いろいろな世代が繋がればと考えていました。そして、参加する子どもたち自身にも楽しみだけではなく役割ややりがいを持てるようにと工夫いたしました。

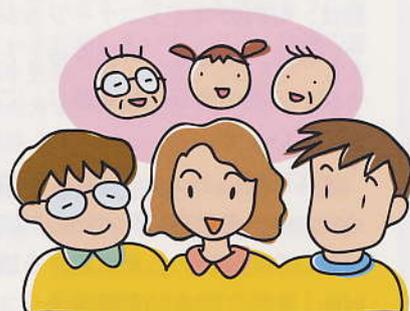
個人としては、このサロンを、地域にとっての大家族に育てたいという願いがあります。現代では少なくなっている大家族ですが、世代を越えて助け合える大家族のように交流できる場所になってほしいと思っています。これからも、部会のメンバーとともに継続して2回3回と続けていきます。今後は、より子ども会との連携を強めて、若い世代の地域デビューのきっかけにもしていきたいと思っています。この記事を読んで、興味がわいた方、地域で活動してみたいけど、一歩踏み出せない方、是非ご参加いただいて、地域活動を始めるきっかけにしてみてください。

Q4

今後の活動への
意気込みを
お願い致します

最後に

今回、上郷西地域での活動を塚本さんからお話をうかがって感じたことは、強い熱意に裏打ちされた活動だということです。地域が大きな家族のように世代を越えて交流し合い、楽しみながらつながっていくことを目指したい！という強い気持が、一緒に活動するお仲間とともに大きな力となりサロンを実現させる原動力になったのだと思いました。ぬくもりは、誰でも参加できるサロンです。最初はサロンに足を運んでいただき、楽しそうだなと思ったら今度はボランティアとして参加してみる、そんな広がり期待できる活動です。興味がある方は、ぜひ桂台ケアプラザにお声かけください。



・さかえ・つながるプラン～本郷中央地区の取り組み・

「3.11を振り返る!」本郷中央地区支えあい連絡会開催される

本郷中央地区では、37名の関係者を集めて今年度第1回目の支えあい連絡会が行われた。今回の大きなテーマは「防災～3/11本郷中央地区ではどのような対応ができたか?～」

総括した野村連合町内会会長の言葉を借りると「情報連絡の手段がなくなり、平時にイメージしていた事はなにもできなかった。マニュアルが役に立たなかった。今度は情報が入り始めると地震だけではなく津波・原発と予想してないことが次々と出てきた」ということになる。会に参加した多くの方も同様の意見であり、ほとんどの自治会では「全く動きがとれなかったという」当日の報告が相次いだ。ケアプラザでも同じような状況であり、ほぼ独居世帯や高齢世帯等の安否確認をその日には行えず、次の日に安否確認を行った。

その一方、ボランティアグループの中には当日に自転車で安否確認のための訪問活動を行っているグループがあり、「ご近所同士でコミュニケーションがとれているところは、すでにお互いで安否確認を取っている」という報告もあった。なお訪問の最中に倉庫から何年も使っていないガスストーブを出そうとしたりするなどの危険な行為を止めたり、懐中電灯の電池を交換したりという事例には、当日訪問する事の大きな意義を感じた。また、民生委員・児童委員においては、3.11当日に40名が区の会議で集まっており、会議終了後すぐに280人のひとり暮らし高齢者を担当毎に廻って安全確認をしており、その3日後に再度確認を行っている。さらに、配食サービスにおいては、震災後一時的に物流が少なくなったり、行列で買い物がしにくくなった状況でも「こんな時こそ必要!」と活動を行ったという報告があった。会議の中で



の発言ではないが、サロン活動においては、震災後ひとりでは不安な高齢者が「余震があってもサロンを中止にしないで」と訴えていたという例も聞いている。この会を終えて、それぞれが取り組むべきことと、ネットワークを組むべきことを整理することの必要性を感じた。防災意識が高まっている中、要援護者の避難支援システムの推進を含めて示唆の多い会になった。

6/27 朝日平和台自治会 自治会訪問記

本郷中央地区で取り組んでいる各自治会・町内会訪問は今年度で5年目になりました。自治会訪問の意義は、「顔の見える関係づくり」と「地域で困っている問題に対しての具体的な解決策の共有」です。そして、私たち訪問部隊は、その結果としてご近所パワーをアップさせることが少しでもできたらOKという気持ちで行っています。

さて、今回の訪問は朝日平和台自治会。当日は、自治会長を始め、多くの役員や活動者の方々にご参加いただき、自治会運営の課題や、福祉・コミュニティ活動の取り組みなどについて、意見交換をおこないました。

継続は力なりと言いますが、特筆すべきなのは、8年ほど前より実施されている「あいさつ運動」! この活動は、町内のコミュニケーションを図ることが目的ですが、隣近所の支えあいや防犯対策にも大きな力を発揮しています。そして、町内を歩くと色々な標語が目に入ります。例えば、「おはようの声が飛び交う登校日」「行き交いの花の会釈に輪を感じ」この優しい標語は、住民間でお互いに支えあおうという温かい気持ちを見る人に伝えています。

次に話題に上ったことは、3.11の震災後の取り組み。すでに自治会では、緊急時に備えた取り組みを検討し始めており、各世帯に発災時の対応等についての聞き取りを行っています。結果、新たなアイデアとして全世帯を対象に安否確認のために掲げる旗（支援の必要性があるかどうかを2種類の旗で掲示する）を採用することを検討中。また、災害時要援護者リストの作成及び運用方法についても検討をすすめているそうです。

会長曰く、自治会活動の要は、自治会員のコミュニケーション! 挨拶運動をはじめ、清掃活動や防火・防犯活動、新年会などの自治会行事を毎年継続的に実施する事が大切であるということでした。嬉しい事に児童数が増加し、子ども会の活動も活発になされている朝日平和台! 若い力にも期待大ですね。